

# 学びや

## ヨイムスワツコ

る147年の歴史のなかで統合や分校が行われ、校名の変遷もありました。学区民は地域の学校名に親しみと誇りを持ち、大切にしてきました。そのことは学校に寄贈された美術品からもよく分かります。京都の画家たちが、母校や地域の学校のために描いて贈り、学びやを美しくした作品には、学舎の名前は、豊臣秀吉の句はあまりに有名です。日本でも『古事記』においてイザナギが黄泉の国から脱出するのを助けた桃が登場します。そんな桃の名のついた校名を学区民は大事にしてきました。

その名から、桃にまつわる美術品が多く所蔵されています。その一つに、学区民に寄贈された、幕末の画家横山清輝の「東方朔図」があります。東方朔は中国前漢時代の有能な政治家で、女仙である西王母から盗んだ桃を食べ、800歳の長寿を得たという伝説で有名な人物です。中国において桃は霊力をもった特別な果物でした。

京都の小学校といえ、それぞれが持つ校名は美にさまざまです。地名からとられたものや地域を象徴する建造物を表したものが、中国古典の節を冠したものなどがあり、由来も種類が豊かです。されたり分かります。京都の画家たちが、母校や地域の学校のために描いて贈り、学びやを美しくした作品には、学舎の名前は、豊臣秀吉の句はあまりに有名です。学校が立てられたこと由来するといわれてお

## 地域への愛 絵筆に託す

1869(明治2)年、中京区の竹間小(現在御所南小に統合)は竹間小の竹間小(現在、梅が地域の象徴となつています。ここに所蔵

上京区の桃園小(現在は西陣中央小に統合)は、平安時代の公卿源保光が大宮一条付近に構え、桃園と呼ばれた邸宅から校名が付けられたとい

近年も統合などが進み、京都に新たな校名が次々と生まれています。地域に愛される名前となることが多いのだと、伝えられた美術品は語っています。



▶写真1、天野方壺「墨竹図」(1880年、元竹間小蔵)

▶写真2、神坂雪佳「菅原道真像」(大正期、元梅屋小蔵)



(京都市学校歴史博物館 学芸員 森光彦)